

下北森林管理署モニターによる国有林の視察

下北森林管理署モニターによる第2回の現地見学会を、去る11月11日に開催しました。

晴天に恵まれた当日は4名のモニターが参加し、まず易国間地区の焼山沢治山工事箇所を視察しました。この現場は、崩壊した斜面へ山腹工（法枠工及びモルタル吹付工）を施工した箇所ですが、「木を植えて土留することはできなかったのか」など工法に関する質問のほか、効果や耐久性などについての質問などが相次ぎ、皆さんの関心の高さが伺えました。



次に「佐藤ヶ平ヒバ林木遺伝資源保存林」に移動しました。気象条件や土壌などの要因もあるとは思いますが、他のヒバ林に比べ形質の良い木が多く、稚樹の生育も旺盛な優良林分です。

モニターの皆さんも、近くの「大畑ヒバ施業実験林」に訪れる機会があっても、遺伝資源保存林の中に入ることはあまりないようで、更新状況などを熱心に観察していました。

その後、大畑川に設置されているスリットダムを視察しました。

大畑川には支流が多く、溪流沿いの倒木などが大雨の際に一気に流れ出るため、本流や支流に数多くのスリットダムが設置され、下流への流出を防いでいます。



治山課長から、去年から今年までの豪雨災害の状況や、たまった流木の撤去などについて説明を受けたモニターの皆さんは、治山事業の重要性を改めて認識している様子でした。

最近の見学会では、生産事業や造林事業の現場を視察することが多かったので、今回の見学会は治山事業への理解を深めていただきたい機会になったものと考えております。